関西大学広報ニュース

ブータン王国の新聞記者と王立大学教員が本学を訪問しました。

千里山キャンパスで 18 日、ブータン王国の週刊紙『The Bhutanese』の女性記者であるツェリング・デルマ氏と、同国ジグメ・ナムゲル工科大学(JNEC)の教員で、インターン研修制度を活用した日本の企業で技術研修を受けているノルデン・ワンチュク氏、カルチャン氏が本学を訪問しました。

JNEC の卒業生であるデルマ記者は、「日本ブータン友好草の根交流活動」として、恩師でもある 2 名の研修生の取材に加え、企業の人つくり現場と関西大学や報道機関への訪問、国会議員との面談を行うため、5 月 15 日から 23 日まで日本に滞在されました。取材と意見交換を基に、日本のモノづくり技術や工業教育の実態、開発途上国からの留学、ODA や国際協力、日本政府の支援などについて、ブータン国民に広くそれらの情報を報道されます。

本学訪問当日は、芝井敬司学長と前田裕副学長・国際部長のもとを訪れ、本学の概要や理念・歴史、ブータンとの関わり、留学制度や海外協定校、教育方針や施設などについて質問。和やかな雰囲気で意見交換が行われました。その後、倉田純一システム理工学部准教授の案内で、総合図書館や理工系学部の共同実習室や研究室を見学し、担当者からの説明に熱心に耳を傾けていました。

写真-1：学長室での記念写真。左から　カルチャン氏、前田副学長、デルマ記者、芝井学長、ノルデン・ワンチュク氏 Photo 1: Commemorative photo at the Office of Presidents. From left: Mr. Karchan, Vice President Maeda, Drama reporter, President Shishi, Norden Wanchuk

2016 年に本学と国際交流協定を締結したブータン王立大学（RUB）では、同国初の 4 年制機械工学科を設立予定で、協定締結時には RUB 副学長と JNEC 学長が来学されました。今回と合わせ RUB 関係者５名の招聘は、機械工学科設立にも尽力されている元本学教員の緒方正則氏と NPO 法人国際建設機械専門家協議会（代表：白井　一氏）の支援によるもので、日本国内の見学旅行にも同行されました。

今回、デルマ記者が取材した日本企業のモノづくり技術や、本学をはじめとした大学の工業教育がブータン国内で報道されることにより、機械工学への興味・関心が高まることによる同国のさらなる発展と共に、１９６０年代から実施されてきた日本による農業支援やインフラ整備支援の成果を継続するための、技術者教育の重要性の認知につながることが期待されます。

写真-2：図書館前での記念写。Photo 2: Memorial photograph in front of the library。

写真-3:機械工作実習室での記念写。Photo 3: Memorial photograph in in the machine training work shop。

写真-4：前田副学長の研究室にて Photo 4: In the laboratory of Vice President Maeda。

写真-5：正門前で前田副学長と Photo 5: In front of the main gate and with Vice President Maeda。